

「新型インフルエンザ」に備えましょう

今回の新型インフルエンザは感染者のほとんどが軽症で回復しています。しかし、これから秋冬に向けて感染の拡大が心配されていますので、①うがい・手洗い、②咳エチケットに心がける、③十分な睡眠とバランスの良い食事をとり体調管理に努めるなど、日常生活での予防対策を継続しましょう。

また、今後の流行に備えて、対応を家族で相談をしたり、日常生活に困らないよう食料品・マスク等の必需品を準備しておきましょう。なお、基礎疾患のある方（喘息、糖尿病、慢性疾患、肝臓機能障害など）は、日頃から発熱時の対応について、かかりつけ医と相談しておきましょう。



■当面の医療体制(兵庫県対策本部の決定)

■外来受診

新型インフルエンザが疑われる場合も含め、発熱患者の外来診察は、感染防止対策を講じた一般医療機関でも受診できます。ただし、事前に医療機関（かかりつけ医等）に電話をし、受診時にはマスク着用のご協力をお願いいたします。

受診先が分からないときは、右記の加東健康福祉事務所の「新型インフルエンザ健康相談窓口」にお問い合わせください。

■入院について

インフルエンザ症状の患者は、原則として自宅療養となりますが、症状の程度や基礎疾患の状況から重症化するおそれのある患者については、必要に応じて入院治療となります（感染防止対策を講じた一般病院でも入院できます）。

■インフルエンザ健康相談窓口

新型インフルエンザの受診体制の変更に伴い、発熱電話相談窓口に替えて、全ての健康福祉事務所に設置されました。

加東健康福祉事務所 ☎ 0795-42-6287

相談時間	平日 9:00～18:00 休日・夜間は県庁に自動転送で対応
相談内容	・発熱患者対応医療機関の案内 ・自宅療養患者の相談 ・新型インフルエンザ一般相談等

加西市の相談窓口

国保健康課 ☎ 0790-42-8723

相談時間	平日 8:30～17:15
相談内容	・新型インフルエンザ一般相談等

【問合せ】 国保健康課 ☎ 8723

高齢者インフルエンザ予防接種（季節性インフルエンザ予防）

インフルエンザは、風邪に比べ気管支炎や肺炎などを併発しやすく、命に関することもあります。接種を希望される方は、流行前の12月中旬までに受けて予防しましょう。

※高齢者インフルエンザ予防接種は「季節性インフルエンザ」ワクチンであり、「新型インフルエンザ」ワクチンではありません。

■対象者

- ・満65歳以上の方。
- ・満60歳以上65歳未満の方で心臓・腎臓・呼吸器の機能障害、もしくはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害で身体障害者手帳1級をお持ちの方、又は同程度と診断された方。

■接種期間

平成21年10月15日（木）～平成22年1月31日（日）

■必要なもの

健康保険証など接種対象者であることが証明できるもの

■回数・料金

期間内1回

500円（3,000円を市が負担します）

※生活保護世帯の方は無料ですが必ず接種前に手続きが必要です。国保健康課（市役所1階9番窓口）に申し出て下さい。

■医療機関

市内指定医療機関、小野市・加東市・三木市・西脇市・多可町の指定医療機関

※上記以外の医療機関で接種する場合は、必ず事前に申請が必要です。10月1日以降、接種予定日までに、国保健康課で申請をして下さい。

【問合せ】 国保健康課 ☎ 8723

加西病院のコーナー

加西病院WEB サイト <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp/>

『新型インフルエンザから社会を守ろう！』

春に新型インフルエンザが出現した折、日本では千人単位の小規模の流行に止まり、一旦収束するかに見えました。大流行は秋から冬にかけてと予想され、ワクチン供給も秋口に予定されました。しかし予想を覆し、新型インフルエンザは8月から本格流行に入りました。この原稿を書いている8月末、国内では一週間当たり10万人の勢いで増えています。この流行で国民の4人に1人が罹患すると予測されています。

今回の新型インフルエンザの性質について現在までに分かったことを纏めてみます。①症状と経過は普通のインフルエンザと同じ（筋肉痛や寒気の後、突然高熱を発生し、3～4日で治まる）、②感染力は強力（1人の患者が2人以上の健康者に広げる）、③毒性は強くない（健康者の重症化は稀）、④死亡率は海外で0.5%と伝えられるが我が国では8月現在0.01%未満（毎年の季節性インフルで0.1%）、⑤死亡者は基礎疾患（腎不全など）を持つ者に多い、⑥稀に健康者が重症化するのウィルス性肺炎と小児の脳症、⑦抗インフルエンザ薬（タミフル）が良く効き、耐性株はほとんど無い、⑧今流行っているインフルエンザの97%は新型。

これらから言えることは、健康者がインフルエンザの症状を起こした時は、他人に染さないよう外出・登校・出勤を控え、マスクを付けて家で寝て過ごし、食事と水分を十分に摂り、熱が収まっても2日間は自宅に留まることの推奨です。症状が悪化しなければ、放っておいても3～4日で治るので、病院や医院を受診する

必要はありません。多数の健康な罹患患者（加西市内でシーズン1万人の推定）が医療機関に押し寄せれば、持病があって通院している方や入院中の方への医療提供力が削がれます。その方達の重症化や死亡のほうがかインフルエンザの危険率よりずっと高いのです。

一方、医療機関を受診すべきインフルエンザ患者は、①基礎疾患（肺、心、腎、糖、免疫）を持つ者や妊婦、幼児、高齢者、②2日目、3日目と段々と症状が重くなる者、③小児では痙攣や意識低下やうわごとが出た時です。このように医療機関への受診を限定することは、新型インフルエンザから社会を防衛するという点で重要です。新型インフルエンザの恐ろしさは、個人が罹患して被る不利益よりも、感染が急速に広がって社会機能を麻痺させてしまうことにあります。

とくに今回、医療機関は新型インフルエンザから社会を守る戦線の要に当たっています。病院医療者をはじめ社会機能の基盤部門で働く人達が自宅に縛られることがないように、保育所や学校や施設を継続させることも大切です。

新型インフルエンザの感染の拡大速度を遅らせ、社会機能を維持するのは、①染さない、②染らない、努力です。その意味で、熱が出れば自宅で様子を見て人前ではマスクと咳エチケット、まだ罹っていない人はなるべく人混みや人の集まる室内を避け、頻回の手洗いやうがいを励行しましょう。その個人的努力が社会全体を守ります。（病院長）

現役医師が講師。「まちかど医療指南」開催



スライドを使って説明する山邊院長

8月27日、市立加西病院の医師が直接街中に出向き医療講話を行う「まちかど医療指南」が、アスティアかさい1階コブ前ロビーで開催されました。第1回目は、「新型インフルエンザ再来に備えよう」と題し、山邊裕院長が30分程度講話。新型インフルエンザへの備えについて、買い物客らが熱心に耳を傾けました。

まちかど医療指南は毎月、場所をアスティアかさい及びイオン加西北条ショッピングセンター交互に開催する予定です（都合で日程等が変更する場合があります。市立加西病院ホームページ等でご確認ください）。

■市内の医療・介護施設等で組織する加西市感染防止ネットワークが講演会を開催

新型インフルエンザに対する認識を高め、家庭・職場などから「うつさない・うつらない」ための講演会を開催します。

日時・場所：9月18日（金）18:30～20:00 加西市健康福祉会館大ホール

講師：清水昌好 加東健康福祉事務所長、山邊裕 市立加西病院長

【問合せ】 市立加西病院 病院経営推進室 ☎ 2200